

クロマツシンポジウム開催

2月19日(土)酒田市勤労者福祉センターにおいて出羽庄内公益の森づくりを考える「第6回クロマツシンポジウム」(公益の種をまき続けよう 種まかざれば実りなしを副テーマとして)が開催されました。

シンポジウムの参加者は、行政関係、森林ボランティア団体、一般市民等(朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター1名)で、総勢で約100名が傍聴しました。

シンポジウムの趣旨としては、庄内砂丘のクロマツ林は「公益」の象徴であり、先人から託された遺産です。この地域の宝を未来につなぐためには、植林の歴史を語り継ぎ、その価値を知り、そして皆が誇りに思うことがスタートです。このシンポジウムは、様々な海岸林保全の取組を広く紹介し、議論し、交流することにより、多様な主体の協働により、大いなる遺産を未来につなごうとする機運を高めていくことを目的としています。

まず最初に、シンポジウムの主催者である特定非営利活動法人「庄内海岸林のクロマツ林をたたえる会」砂山理事長より挨拶がありました。

第1部の活動報告では、西荒瀬保育園の「みどりの保育園活動について」、遊佐町立西遊佐小学校の「伝えよう松林の大切さ」、東北公益文科大学の「学生の視点から見た森づくり活動の意義」、万里の松原に親しむ会「こどもと大人“松林協働”10年の歩み」、砂丘地砂防林環境整備推協議会の「地域と学校と連携した砂防林の再生」、庄内森林管理署治山課の「海岸砂草地の重要性について」の発表がありました。どの団体の活動も庄内海岸林公益活動そのものであると感じました。特に当センターとして森林環境教育を支援してきている西荒瀬保育園の取組は、園児達が「しんちゃん森」での遊びから得られた笑顔いっぱい印象的でした。

次に、第2部の意見交換では、「遺産を未来につなぐためには」をテーマとして、西荒瀬保育園 小山内さん他5名による意見交換がありました。それぞれの登壇者からは、活動での課題や苦勞してきたことなどの話を聞くことが出来ました。その話を聞いた一般参加者の感想が気になりました。

最後に、参加者全員で「クロマツの歌」を高らかに合唱して、閉会となりました。

